

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
32	川崎市立南加瀬小学校	渡部 陽子

学校教育目標	今年度の重点目標
心豊かでたくましく、実践力のある子どもの育成 ○思いやりがあり、協力できる子 ○進んで学び、よく考える子 ○何事にもくじけず、がんばる子 ○地域で学び・地域で育つ子 R5キャッチフレーズ「思いやり、進んで学び、くじけない、地域と育つ南加瀬」	○共生・協働の姿勢を育てる(自尊感情の育成、いじめ防止、言語環境の育成、共生共育の充実) ○自学・自習の姿勢を育てる(カリキュラム・授業改善、基礎学力の定着、読書活動の推進、学校評価の充実) ○自主・自立の姿勢を育てる(基本的生活習慣の定着、体力向上、健康・防犯安全管理、健全育成) ○地域や保護者との連携(地域の人材活用、地域行事参加への呼びかけ、情報発信、児童の安全確保)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 共生・協働の姿勢を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動を通じたあいさつ運動の実施 ・人権意識を大切に児童指導の徹底 ・支援教育コーディネーターを中心とした児童理解とチーム支援の充実 ・いじめ、暴力の未然防止 ・人権尊重教育の推進 ・共生・共育プログラム、効果測定、SOS出し方受け止め方教育の計画的な実施 ・互いに認め合える学級集団作りや教職員の人権意識を高めることを目指した教職員研修の充実 ・異学年交流やふれあい活動の充実 ・児童の主体性を大切に特別活動や学校行事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動に全校で取り組み、児童の意識が高まっているが、コロナ禍の影響か、挨拶や話し合い、言葉によるコミュニケーションが苦手な様子も見られる。教職員も積極的な挨拶や声かけが必要である。 ・支援教育COを中心とした校内の支援体制が構築され、個別に支援が必要な児童の状況把握や支援方法の検討が順次行われている。教育相談日や巡回カウンセラーの相談窓口等の保護者への周知により、教育相談の充実にもつながった。 ・いじめ等の問題に対し教職員の感度をあげ、早めに対応できるように職員研修を重ねてきた。学年での児童理解が深まった。 ・委員会、クラブ活動の立ち上げや異学年交流の実施により高学年の育ちが見られた。さらに児童の主体性を生かす工夫が必要である。 ・人権集会や共生＊共育プログラムを通して、児童が自分自身のレジリエンスに気付き他者理解の大切さを実感していた。 ・教職員の人権感覚について研修を継続してきた。担当が問題を抱え込まず、教職員間での風通しの良い情報共有とチーム対応が今後も必要不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校でのあいさつ運動の継続と共に、どんな場面でも挨拶や言葉遣いを大切にできるようにしていく。日頃からのコミュニケーションの手立てとして、教職員も積極的に児童への声かけを行っていく。 ・支援教育COを中心に情報共有のチーム体制は整ってきているので、さらに教室での一次支援・校内の支援体制(取り出し指導や別室登校を含む)の充実を図る。 ・いじめやトラブル防止に対し、引き続き「すばやく！みんなで！」を合い言葉に教職員の感度を上げていく。 ・SOS出し方受け止め方教育についてはカリキュラムに位置づけ、共生＊共育プログラムと同様に落ちないように実践していく。学級・学年を超え、互いの実践を見合う機会を作る。 ・教育相談や児童理解について職員の研修を継続する。また担当が問題を抱え込まない体制を改めて確認し、チームで解決にあたることを基本に据えていく。
2 自学・自習の姿勢を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究を通しての主体的・対話的な深い学びの推進 ・単元や本時のめあてを意識したわかりやすい授業の実践と基礎学力の定着 ・個別の学習状況に合わせた指導方法の工夫 ・児童が安心して発言できる学級の雰囲気作り ・伝え合いやかかわり合いを大切に校内授業研究の実施 ・GIGAスクール構想の理解と積極的な活用 ・朝読書タイムの継続実施と日常的な読書活動の充実 ・学年交換授業・教科担任制の推進 ・校内OJTの充実(教員間での研修の実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究では、国語科の一人一実践として取り組んできた。「自分の考えに根拠をもち、伝え合い、共に学び合う子の育成」を目指してきた。学年チームを中心に研究を深め、互いの実践から学び合う教師集団の姿が見られた。また校内研究の中で日頃の学級経営を大切にしながら言語環境を整えることも推進してきた。 ・GIGA端末の学習の中での日常的な活用を推進してきた。長期休業期間は宿題等にも活用し、児童も取り組みやすさを感じていた。児童のより主体的な活用を検討していく必要がある。 ・学校図書館司書の配置により、図書室の環境がより良く変化してきた。休み時間に図書室を訪れる児童も少しずつではあるが増えている。継続的な読書活動へつなげていきたい。 ・学年での交換授業や教科担任制の実施により、学年の児童理解が深まったり、教材研究の充実につながったりしている。 ・教職員のキャリアや個性を生かし、校内での人材育成を意識できるよう職員間での研修の場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の素直さや前向きな姿勢を大切に、意識的にほめたり認めたりすることを通し、児童の自信につなげていきたい。また、学習の中での子供どうしの関わり合いを継続する。 ・教員は自身の授業スタイルを見つめ直しながら授業改善を図ったり、児童が見通しをもって学べるよう、わかりやすく意欲が高まるよう指導力を磨いたりしていく。 ・次年度も校内OJTの充実を図る。 ・朝読書の時間の見直しを図り、読み聞かせがない日にはしっかりと短時間でも自分自身の読書に浸る時間を作っていきたい。教師自身の図書館活用のスキルアップも必要である。 ・学年での交換授業に積極的に取り組み、教職員の授業力アップと働き方改革のどちらにも生かせる取組を継続する。

3	<p>自主・自立の姿勢を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣定着のための指導の継続 ・きらきらタイム等の活動を通した体力の向上の推進 ・休み時間の外遊びの励行 ・「自分の健康・安全は自分で守る」ための健康・安全教育の推進 ・給食指導を通しての食育の実践 ・換気、手洗いの励行 ・教科・領域・特別活動の時間を通しての防災教育の充実 ・GIGA端末・携帯電話・通信機能付きゲーム機等に拘わる情報モラルと危機回避のための教育の実施 (保護者向けにも) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かせっこめあて」について教職員の共通理解と指導の徹底を図った。どの職員も全校児童に同様に指導をすることを意識することで、約束を守ろうとする児童が増えている。 ・児童会運営については児童の主体性を生かせるよう委員会・クラブ活動で担当教諭とリーダーとの事前打ち合わせを新設した。関わる教師側の意識も高まってきた。 ・キラキラタイムを計画的に実施。外遊びをする子も増加傾向にある。運動遊びをしない子との二極化は見られる。 ・緊急時下校訓練、津波による垂直避難訓練、予告なし避難訓練等を実施。緊急時には自分の身を守ることが他者の命も守ることにつながる指導を徹底し児童は真剣に参加した。 ・ゲストティーチャーを招き、情報モラル教室を行いトラブルの未然防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童主体の特別活動を意識し、学級での係活動や学級会運営等についても推進していく。また、代表委員会や委員会、クラブ活動の立ち上げが形骸化しないよう児童会活動のねらいを明確にし、特別活動部の充実を図る。 ・学校の約束事については、年度の初めの指導が大切になる。児童支援部を中心に、新任や異動者が指導しやすさを感じられるよう、全体共有をしっかりと行う。 ・キラキラタイムを今後さらに活用し、一人一人が体力の向上に向けて目標を設定し、楽しみながら運動遊びに取り組みるよう活動を充実させる。 ・GIGA端末の活用によって、さらに一步踏み込んだ情報モラル学習が必要になる。教師間のミニ研修も継続していく。
4	<p>地域や保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科・領域にわたり子供の実感をともなう理解を高めるための地域人材等を活用した学習カリキュラムの作成 ・夏祭りや地域行事参加への呼びかけ ・子供の安全を最優先にした、主任児童員、民生員、子ども見守りセンター等の専門機関との連携強化 ・町内会、PTAと連携した通学路の安全、放課後の見守り活動の実施・通学路等の定期的な点検 ・地域教育会議やあいさつ運動等を通しての南加瀬中学校区の中小連携の充実 ・保護者や地域への積極的な情報配信 ・定期的な教育相談日の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さに目を向け、地域に愛着をもてるよう、生活科や総合的な学習での単元を工夫している。地域の祭りや交流も再開され児童の参加も増加傾向にある。日常の公園遊びも活発である。公共性や近隣への配慮については、継続して見守りが必要である。 ・PTAとの連携を密にし、児童の安全に関わる活動(旗当番・かせっこパトロール)をともに行なった。地域を含んだ見守り体制が構築されており、登下校や放課後遊びの安全につながっている。 ・地域教育会議の開催に際し子供会議を運営した。GIGA端末等も活用し、中学校を含めた4校の児童間の交流が図られ、児童の意欲につながった。 ・年に2回、学校教育推進会議を実施し、児童の実態や学校の教育活動について地域の理解を得ることができた。信頼関係を構築し、今後も連携を深めていきたい。 ・今年度より定期的に教育相談日を設け周知した。学校の相談窓口を広げ、保護者が相談しやすい環境を整えるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を大切にしたい学びを深めるため、教材開発や人材発掘を継続して行っていく。 ・学校ホームページや学校便りにて積極的に学校の教育活動を発信していく。 ・保護者や地域との連携を大切にし、地域行事への参加の呼びかけや周知などに学校も協力していく。 ・引き続きパトロール活動や学校教育推進会議を行い、PTAや地域の皆様の理解を得ながら、2年後に控えた学校運営協議会の立ち上げに向け準備をしていく。 ・中学校区の連携を継続し、常に情報共有していく。 ・公園での遊び方について考えたり、「みんなの校庭プロジェクト」について児童の意見を取り入れたりしながら、安全で楽しい放課後遊びへ意識付けを行う。 ・教育相談日の継続。
<p>学校関係者の評価(学校教育推進会議にて)</p>		<p>学校運営のまとめ</p>		
<p>○子供たちがいきいきと楽しそうに学び、どの学年も落ち着いて学習に取り組んでいた。 ○地域が好きで感謝の気持ちをもっている子が多く嬉しい。学校外でも挨拶をしてくれる子が多い。 ○寺子屋などで関わっていると学校全体に落ち着きを感じる。子供たちはよく声をかけてくれる。地域の寺子屋を継続してがんばりたい。 ○学校評価の結果を見ると子供たちは肯定的で前向きな回答が多いことがわかる。保護者や先生の見方の厳しさも感じる、大人の見方も変わっていくと良い。 ○GIGA端末が活用されている事がわかる。調べるだけでなく、個々に合ったドリルに取り組んだり、互いの意見を共有したりすることにも活用されている事がわかった。 ○委員会活動等で児童が自主的に様々な取組をし、全校あいさつ運動や募金活動等それぞれにがんばっていることがわかる。 ○先生方の授業の変化を感じる。交換授業等の取組が良い。学年の先生皆で学年の児童をみていくという考えは、双方にとって良いのではないかな。 ○学校教育目標の目指す子供の姿に「他者を大事に」とあるが、まず「自分を大事に」することを大切にしてほしい。</p>		<p>○主体的な学びへの授業改善を目指し、校内研究を進めてきた。教員の授業改善への意識をさらに高められるよう、研究の体制も見直していきたい。 ○日常的なGIGA端末の活用も進んできている。今後は授業や学級活動の中で、児童同士の関わりを深めるような実践ができるよう、引き続き校内研修の充実を図る。 ○教科担任制や交換授業を推進し、チームで学年の児童の指導にあたれるよう努めてきた。各学年会の在り方にも工夫が見られ、校内でのOJTを意識した取組が見られた。引き続き経験の浅い教職員をチームで支え育てて行くこと、また教員同士で授業を見合いブラッシュアップしていくことを次年度も継続していきたい。 ○児童支援・特別支援の体制が整ってきている。教職員間の情報共有を密にすることで、いじめやトラブルにチームで素早く対応をすることを大切にしてきた。定期的な教育相談日を設けたことで、相談窓口も認知されつつある。児童や教職員・保護者のニーズに応じた支援方法について明確にし、体制の更なる充実を図る。 ○R7年度の学校運営協議会の発足に向け、地域やPTAとの情報発信を積極的に行っていく。</p>		